

# 樽一物語 樽一のはじまり～その1 三陸の食材と鯨

「樽一」第1号店は昭和43年12月、新宿区高田馬場の地に開店した。佐藤慎太郎の父佐藤孝がいわゆる脱サラをして開いた店である。

佐藤孝は、昭和10年宮城県桃生郡矢本町(当時)に生まれた。

矢本町は2005年に鳴瀬町と合併し東松島市となったが、石巻湾に面し、航空自衛隊の松島基地があることで知られている。宮城県は、全国有数の漁獲高を誇る漁港を複数抱え、東日本大震災の被害を受ける前年の平成22年には漁獲高で北海道に次いで二位を占めたほどの漁業県である。

佐藤孝の生まれた矢本町は東には石巻港、西には日本三景の松島があり、そのまた西方には塩釜港がある。三陸沖は、黒潮と親潮がぶつかりあう地点で、世界三大漁場の一つにも数えられる魚資源の豊富な漁場であり、石巻、塩釜両漁港には新鮮で豊富な三陸沖の食材も水揚げされる。カキやホタテなどの養殖も盛んである。佐藤孝の生まれ育った故郷は、このように海と水産業に囲まれた環境にあった。

佐藤孝は、日本大学農獣医学部水産学科に入学し、水産業を学んだが、それはこのような生育環境の影響が大きかったのであろう。

そして、矢本町に近い牡鹿半島石巻市鮎川は、1900年代の初めから複数の捕鯨会社が捕鯨基地を設けるほどの日本の捕鯨業の中心地であった。現在でも同地では調査捕鯨が行われているが、昭和の時代の鮎川は捕鯨で栄えた町であり、鯨文化が近隣の地域にも深く根付いていた。佐藤孝は、日本大学農獣医学部水産学科を卒業後、鯨類研究所に入所し鯨の研究を続けるほどであり、鯨への関心が深かった。

鯨類研究所を退所後、サラリーマン生活を経て、佐藤孝は「樽一」を創業するに至ったが、このような環境であれば、三陸の食材と鯨にこだわるのは、当然の成り行きであったであろう。